

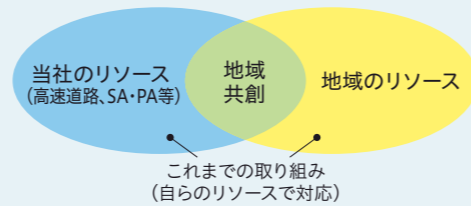
地域の新しい魅力づくり

当社グループでは、事業を通して様々な地域連携を行っています。ここでは、SA・PAにおける地域連携として取り組んでいる『地域共創』を特集します。

地域共創

当社では、多様化の進む様々な地域課題に対し、当社と地域のリソースを活かし合い、お互いが汗をかきながら課題解決を目指すことで、持続可能な地域づくり(=地域の成長)にチャレンジする『地域共創』活動を行っています。

お互いのノウハウ・リソースを持ち寄り、解決困難な地域課題に取り組むことで、新しい価値を創出



関門 ON AIR

関門海峡の空に、情報のサービスエリアを

下関市・北九州市と連携し、音声とウェブが融合した地域連携メディア「関門ON AIR」を、2021年6月から運営しています。音声プラットフォーム「Voicy」を活用し、地域で活躍している方をパーソナリティとして迎え、ご当地情報や地域の特産品、地域独自の活動などを配信しています。

その場所でその時しか得られない旬な情報を届ける地域連携メディアとして、地域の魅力発信に貢献していきます。



関門道 壇之浦PA
多目的スペースで
音声収録

過去の放送タイトル (100本以上公開中)

- 『「神の畑」×「農家の努力」で栽培! 驚きの糖度を誇る神畑ルビーとは?』
ゲスト: 四つ葉農園 山田さん
- 『博多っ子が移住するほどの佐伯の魅力とは?』
ゲスト: さいき旅ゲーター 佐季さん
- 『関門国道トンネル建設に至る歴史をご紹介します!』
ゲスト: NEXCO西日本 九州支社 中村支社長

関門ON AIR
ポータルサイト



voicy
視聴には「Voicy」アプリが必要
です(ダウンロード無料)

Voice



私自身、関門ON AIRの影響で故郷の見え方・捉え方に変化があり、改めて関門のまちの素敵さに気付かされる日々です。これからはそんな地域や人がすでに持つディープな魅力を発信できれば…! NEXCO西日本の新たな挑戦に関わらせて感謝です!

パーソナリティ 農家ダンサー ノツボさん



「ogi cube」みつばや小城市羊羹製造本舗
(佐賀県小城市)

小城市リビングラボプロジェクトで開発した商品が福岡デザインアワードで金賞を受賞

当社と佐賀県小城市、福岡地域戦略推進協議会(FDC)による産学官民のまちづくり企画として、小城市民の皆さまや地元企業とのワークショップ(リビングラボ)により生み出した新商品「ogi cube」(オギキューブ)が、「第23回(2021年度)福岡デザインアワード」において金賞を受賞しました。

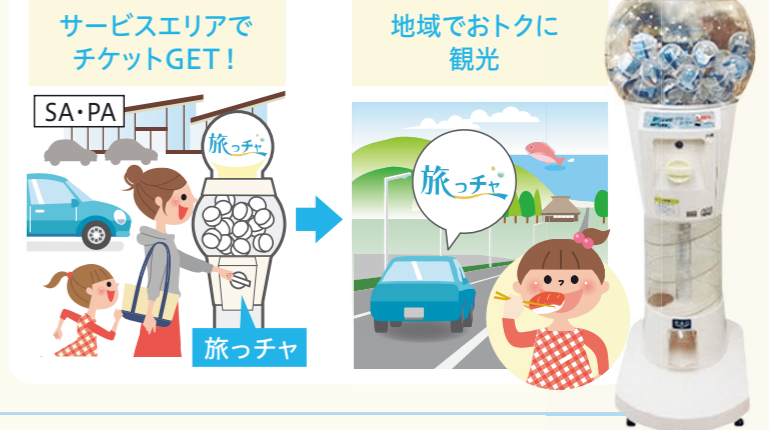
佐賀県小城市との
地方創生プロジェクト



旅っチャ 新たなクルマ旅の提案

クルマ旅の偶発性と体験性の演出を目的に、「運試し型の小型チケット販売機」をSA・PAに設置し、旅先で地元ならではのグルメが味わえるお得なチケットが当たるキャンペーンを、自治体との共創により実施しています。

高速道路を通してお客さまに地域の魅力をお得に堪能していただくという、新たなクルマ旅を提供しています。



「新しい旅の形をつくれたことに大変満足しています」 大分県佐伯市：おかえりなさいきキャンペーン

高速道路と佐伯市が連携して、地域への誘客を促進したい。地域課題の解決に対するそんな両者の思いから誕生したのが、『旅っチャ』の原型となった『おかえりなさいきキャンペーン』でした。



第一弾 2020年11月～翌年3月※
当時の名称は「佐伯寿司たび」
第二弾 2021年11月～翌年1月
「旅っチャ」としての
第一号企画

Voice



田中利明 佐伯市長

福岡県から佐伯市へ誘客を図るため実施した第一弾の「佐伯寿司たび」は大好評でした。カプセルトイを活用した誘客は、遊び心とお得感を創出し、佐伯市への旅のきっかけに大きな役割を果たしてくれたと感謝しています。当初計画した1,000個はわずか3週間で完売し、1,554個を追加販売という大成功をおさめ、新しい旅の形をつくれたことに大変満足しています。

第二弾は、内容をランチと市内の体験施設で使用できる割引クーポンにアレンジしました。さらには、市の取り組みとして、佐伯を紹介してくれる「旅ゲーター」を設置し、佐伯市のあらゆる楽しみ方を紹介しました。こうした形で、キャンペーンの内容を旅行者のニーズに合わせてブラッシュアップしていきながら、佐伯のファン創出につながることを期待します。

※福岡県の緊急事態宣言発令に伴い、チケット利用期間を3月まで延長

「面白い取り組みだな、と感じました。高速道路会社がここまで考えるのか、と」 愛媛県伊予市：伊予市を楽しもう! Go To IYO キャンペーン

佐伯市での成功を受けて、愛媛県伊予市にも提案。松山道 石鎚山SA(下)に「Go To IYO プレミアムクーポン券」が当たる小型チケット販売機を設置したところ、用意した3,630個が最終日を待たずに完売しました。



2021年11～12月当時の名称は「伊予ええくじ」

Voice



武智邦典 伊予市長

面白い取り組みだな、と感じました。高速道路会社がここまで考えるのか、と。当時は新型コロナウイルスの影響で飲食や宿泊等の業種が特に大きなダメージを受け、アフターコロナに向けた観光振興策の立案が急務でした。少人数のクルマ旅であれば密も避けられ、感染対策に配慮された企画内容となっていましたので、すぐに事務方に検討するよう指示を出したのを覚えています。

市域への誘客や消費による経済効果があったという点はもちろん、「伊予市」という名前を、SA・PAやFacebook、YouTube等のNEXCO西日本の持つ多くの媒体で露出してもらい、高速道路をご利用される方に知っていただけたという点でも、ご一緒させていただいた大きな意味があったと思います。